

令和5年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

地域外国人と共に暮らす

「多文化共生」の街づくりに向けて

和歌山県岩出市 多文化オアシス☆にほんごおしゃべり会

令和5年の出入国在留管理庁の発表によると、令和4年度末現在における在留外国人数は過去最高を更新し300万人を超える。申請者らが活動を行う和歌山県在住の外国人数は8006人と少ないものの年々増加傾向にある（昨年度比12・3%増加）。地元企業などにおける外国人の労働力は不可欠で、彼／彼女らに対する期待も大きい。改正出入国管理法（入管法及び法務省設置法改正）の成立、日本語教育の推進に関する法律の成立などの社会的背景もあり、日本語教育の保障や「誰一人取り残さない」「多文化共生の街づくり」が大切な社会課題として注目されるようになってきた。しかし、特に外国人散在地域である地方都市では、それらの具体化が進んでいるとは言い難い。

「多文化オアシス☆にほんごおしゃべり会（以下、「多文化オアシス」）は、日本語教育の「空白地域」と呼ばれていた和歌山県紀北エリア（那賀地域）で発足した外国人への日本語・生活支援活動である。活動は2015年夏、前身となる日本語教室「つながれジャパニーズ」（NHK和歌山2016年11月28日「あすのWA!」で紹介）として開始した。当該の日本語教室は、2017年に教室授業型の日本語教育と対話型の日本語交流活動「おしゃべり会」に2分化し、後者が「多文化オアシス☆日本語おしゃべり会」として独立し現在に至っている。

活動の目的は、△おしゃべり▽を通じて日本語を話す機会を設け、和歌山県紀北エリアに住む外国人が安心して暮らせるためのこ



活動の様子（水曜日晚）

とばと生活へのサポートを実施することである。また、外国人が悩んだり不安をおぼえた時に頼れる日本人と出会う場（オアシス）、地





地域イベントでの発表（インド・パンジャブ語の紹介）

域における居場所づくりを目指して活動している。地域住民である日本人ボランティアは、教員（大学教員・元大学教員や高校教員）、現役大学生、退職者を含む会社員、介護士、主婦や経営者と幅広く、豊富な経験や人脈などから助言、サポートできる強みがある。また外国人とは互いに地域の生活者として対等な関係性を構築することを念頭においている。

活動は、大学院の外国人研究者の家族（妻と子ども）が日本の地域社会に参加するための課題（保育所の先生との連絡、たとえば子どもの給食など宗教上の制限事項）に対応することに始まった。活動日時は、火曜日（13時半～16時、於…紀の川市役所・打田生涯学習センター）、水曜日（19時～21時、於…上岩出コミュニティセンター）と土曜日（10時～12時、於…岩出市立サンホール）の週3回

で、土曜日の活動は子どもの学習サポートである。これまで中国、韓国、台湾、香港、英国、インド、ブラジル、ベトナム、フィリピン、アメリカ、シリア、バングラデシュ、エジプト出身の外国人が参加した。これまでのサポートや活動内容は以下の通りである。

① 日常的な活動

ハおしゃべり（日本語使用）を通じた情報交換や課題解決、互いの国や文化を伝え合い異文化交流

- ・病院の情報提供および同伴、雇用内容の折衝、職場でのコミュニケーション改善に向けたアドバイスや就職・転職時のお手伝いなど
- ・ランゲージ・エクステンジ（各国のことば紹介）

② 研修会

- ・生活の漢字について…文化庁助成金実施団体との連携
- ・防犯講座「安全・安心に暮らすために」…地域（岩出警察署）との連携
- ・シンポジウム「多文化共生のための地域づくりにむけて」の開催…JICA和歌山デスクと協働のSDGs勉強会
- ・地元住民に対するボランティア研修「外国人のことば支援・生活支援のために」…近畿大学「多文化共生のためのことばの会」・岩出市教育委員会と連携
- ・「多文化オアシス」メンバーによる勉強会…

ベトナム滞在経験者によるベトナム紹介「やさしい日本語」研修

③ イベント実施

- ・シリアンフェア（スイーツ試食・販売）、ベトナムフェア（料理紹介）
- ・イギリス風古民家でのホームパーティ、お花見、ホタル狩り

- ・近畿大学生物理工学部学園祭（きのくに祭）への参加（フリーマーケット、インドボディーアート体験会）

④ 「多文化共生の街づくり」に向けた行動

- ・調査…外国人労働者受け入れ企業へのアンケート・インタビュー
- ・地域と連携した活動…「ゼロ円マーケット」



メンバー宅でのベトナム料理パーティー



シリアンフェアー (シリア・シリアのお菓子紹介)

での外国人スピーチ・各国料理参加協力、「粉河中津川クリーン大作戦および交流パーティ」への参加協力
 ・地元企業と連携した交流活動…外国人従業員向け出張講座(和歌山弁、ことわざ比較、防災・防犯時の日本語、「減災体験」など)

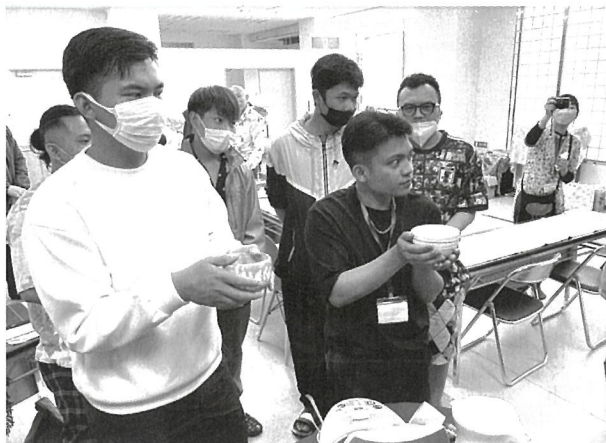
「多文化オアシス」は草の根的な活動を通して、外国人と共に生きる街の仕組みづくりの実現を念頭に自治体にも働きかけている。2021年より紀の川市の「多文化共生」担当部署の職員へのヒヤリングを行っているが、徐々に自治体からの協力も得ることができるようになってきた。また、外国人労働者を雇用する企業へのアンケートやインタビューも実現し、「多文化オアシス」が地域

と連携する活動に発展しつつある。例えば火曜日(毎週)の日本語教室は、市役所内の施設での開催が可能になるとともに、市役所職員や外国からの研修スタッフの参加も得ている。それは市役所内での「やさしい日本語」使用への意識向上や、外国人住民への理解につながっていると考える。また、企業の外国人寮での「出張講座II日本語交流会」も2023年度より定期的に開催している。外国人を雇用する企業も、「多文化オアシス」と協働実施する活動が地域に開かれたものとなり、「多文化共生」の街づくりの第一歩となることを願っている。さらに、平日は仕事で忙しい外国人労働者が、日曜日に地域住民である日本人や、特に学生との若者同士の交流を行う機会にもなっている。外国人から音楽を披露する機会を要望する声が出るなど、日本における自己実現の申し出にもつながった。同時に、日本人にとっても年齢・国籍が多様な参加者との活動からの学びは大きい。

今後も調査を継続し、日本で生活する外国人や日本語学習者のニーズを掘り起こすことで、異なる文化や価値観を持つ者同士が共存および共栄できる街づくりを目指し、また地方の外国人散在都市における試みの一例となるよう活動していきたい。

(多文化オアシス☆にほんごおしゃべり会

共同代表・近畿大学 服部圭子)



お茶体験



書道体験